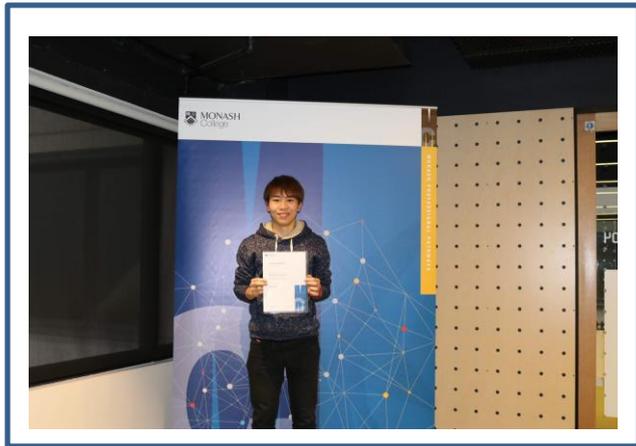


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 堤悠介
所属 工学域機械系学類
学年 1 回生

留学先 モナシュ大学
GPP プログラム

留学期間
2019/8/9~2019/9/2

記入日 (Date) 2019/9/14

留学レポート Study Abroad Report

一回生の僕にとって、今年度の夏休みは初めての長期休暇だった。僕はその貴重な時間を留学という形で過ごせてとても幸せである。大学生の長期休暇にはさまざまな過ごし方がある。部活動に全力をささげる人もいれば、バイトをして貯金する人、新たな勉強を始める人、旅に出る人、もしくは僕みたいに留学をする人など、たくさんある。

どのような過ごし方をすれば自分は満足するのかと考えたとき、僕は海外に出たいと思った。約2か月丸々休みを頂けるのは就職したらほとんどない。だからこそ、学生中にいろいろなとこに旅行したいと思う。今回の夏休みを海外旅行で過ごすのもありだと思ったが、まずは英語のスキルアップとたくさんの文化を学びたいと思ったから、留学という形を選んだ。いくつかのプログラムがある中で、モナシュ大学のGPPプログラムを選択したのは、将来海外で働くためのスキルを学ぶことができるプログラムだったから。

府大からの参加者は自分を含めて四人であった。修士二年、三回生と二回生の人たちでみんな学年はバラバラであった。オーストラリアに旅立つ前に何度か顔を合わせることがあったが、特別親密な関係になることもなく出国の日を迎えたが、留学を通して仲良くなった。不安な気持ちはいづらかあったが、楽しみな気持ちでいっぱいだった。

ここからは時系列に沿って説明したいと思う。

関空から香港で乗り換えてメルボルンまであわせて約12時間のフライトを終えて、モナシュ大学側が手配してくれたタクシーの運転手が空港に迎えに来てくれるはずであった。しかし到着しても運転手はおらず、戸惑った。約30分ほど遅れてから迎えが来てくれ、それぞれのホストファミリーの家へ送ってくれた。遅れても日本人みたいに謝罪をしないという点から、文化の違いを強く感じた。

ホストファミリーの家に着くと、暖かく迎え入れてもらった。ホストファミリーの家族構成は、母親と息子二人であった。息子たちは小学生と高校生であった。日本の一般的な一軒家とは違い、家はとにかく広かった。なんとバスケットボールコートとゴールが庭にはあった。バスケットボール好きの僕にとってはたまらなく羨ましいものだった。高校生のほうの息子とバスケットボールで対戦しようと楽しみに話していたが、彼は僕の到着した翌日にクラブ活動の試合で足を怪我してしまい、それはかなわなかった。

メルボルンでの初日と二日目は土曜と日曜だったため、さっそくメルボルンの観光をした。シティの中心である、フリンダースストリート駅周辺(左の画像はフリンダースストリート駅周辺)を散歩し、休憩時にカフェに入ってコーヒーなどを楽しんだ。メルボルンはカフェが有名ということもあって、数は無数にある。それぞれのカフェが特徴的で、留学中にたくさんのカフェを回ったが、飽きることはまったくなかった。



土日が終わり、月曜日からモナシュ大学に通い始めた。大学のカリキュラムとしては、一週間単位で分けられていた。一週間目は、日本の学生と中国やマカオの学生が半々ぐらいで、週の前半はパーソナルブランディングを中心に学習し、後半ではオーストラリアの現地の企業訪問をした。

パーソナルブランディングとは、自らを紹介するときに必要なスキルであり、就活や自己紹介の時に大いに役に立つものである。その他、自分を知ることなどでたくさん学んだ。

企業訪問では、Bupaという保険会社の見学をさせてもらった。この企業訪問では本当にたくさんのことに驚きや関心を持った。オーストラリアとは移民の国であり、会社内にはたくさんの文化の異なる人が働いている。つまり、マルチカルチャーな会社なのでたくさん問題などが

生じるであろうと思っていたが、それはまったく見受けられなかったのだ。それはなぜかと簡単にいうと、それぞれがお互いをリスペクトし、ソフトスキルというコミュニケーション能力などがそれぞれ高かったからである。ほかにとても驚かされたところは、会社の環境である。日本でよく想像されるようなオフィスとはまったく異なっており、開放的でとても快適に思えた。休憩部屋には無料で煎れられるコーヒーはもちろんのこと、卓球台やヨガルームといったスペースもあった。ビルからの景色もとてもきれいだった。とても貴重な経験を得ることができる企業訪問であった。企業訪問の翌日、日本人と中国人の学生二人ずつで四人の班を組み、その翌日にあるプレゼンテーションの準備を行った。当たり前のように英語で準備を共にするのであったが、自分の英語力の低さを痛感したが、伝えようという意識があれば、案外できるものだと思った。無事にプレゼンをしたのだが、周りのプレゼンのすごさに圧倒されたが、彼らから吸収することがたくさんあった。このようにして、濃い1週間を終えた。

2回目の土日を迎えた。同じ府大の先輩のホストファミリーが2日とも僕ともう一人の府大の先輩をいろいろなところに連れていってくれた。土曜日はフィリップ島で野生のペンギンと満天の星空を見て、日曜日は彼らの普段通う教会と、メルボルンの街を展望できる山に連れていってもらい、夜に彼らの家で夜ご飯をご馳走させてもらった。本当に楽しい土日を過ごした。

2回目の土日が終わり、2週目の professional skills week を迎えた。スモールトークのスキルや、自分の特性の理解やチームワークといった、働くときに必要となるスキルを多く学んだ。印象に残っていることは、チームワークの実践として行ったあるタスクである。日本では答えのあることについてチームで話し合い結論を導くということは何回かやったことがあったが、答えのないことについて話し合いをし結論を出して、他の班と比べることが本当に興味深かった。そして週のおわりでは、在メルボルン日本国総領事館の総領事の松永一義さんを大学にお招きしていただいて、講演をしてもらった。総領事の過去や、国際機関で働くことについてなど濃密な話を多く聞いた。僕はまだ就職の進路が具体的に決まっていなかったが、彼の話聞いて、視野が大きく広がった。こうして2週目を終えた。

再び土日を迎え、土曜日にまた先週と同じ先輩のホストファミリーにヴィクトリア温泉に連れて行ってもらい、再び彼らの家に夕食に招待してもらった。本当に親切にってもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。日曜日は、府大の先輩と大学でできた友達を含めて六人でメルボルン発のグレートオーシャンロードのツアーに参加した。グレートオーシャンロードには自然の壮大さに本当に感激を受けた。



ついに最終週を迎えることになった。最終週は project week といって、班になって週の最後の日のプレゼンに向けて1週間準備を行うものであった。最終週は、プログラムに参加しているのは日本人だけということで、テーマはそれぞれの班が日本にあってオーストラリアに無い商品を、オーストラリアの市場に売り込むためにプレゼンをし、その事業のために投資家にアピールするものであった。僕の班は、「こたつ」についてのプレゼンをしました。プレゼンの準備をするときに、チームワークの大切さを実感しました。第2週目で学んだことが大いに役に立ちました。いざ本番を迎えるときに、緊張はもちろんあったが、この日までにたくさんのプレゼンをしてきたので、自信もあった。プレゼン力は、1週目にやった時よりも格段に上がった。こうして最終週も終え、モナシュ大学での勉強を終えた。(左の画像はプレゼンの様子)

帰国前に最後の土日を迎えた。土曜日は、パフティングビリー鉄道に乗り、日曜日はセントキルダビーチで夕方まで過ごして、最後にホストファミリーにお別れと感謝の気持ちを伝えてメルボルンを出国した。

どのように過ごしてきたか簡単に説明したが、まだまだ書ききれない。平日は学校を4時ごろに終えていたが、毎日のように観光や外食をしていた。特に気に入っているのは、バーである。だいたいバーは4時から6時くらいまでハッピーアワーという、お店のお酒が半額くらいの値段で味わえる時間帯があった。そこでは、ほかの大学（一橋、名古屋、神戸、お茶の水、青学など）から来た生徒たちの話をたくさん聞いた。その中には、大手広告代理店やコンサル会社に就職が決まっている人など、たくさん自分よりも人生経験の豊富な先輩から多くのアドバイスを頂くことができた。これからの大学生生活において何をしたらいいのか、など考えさせられることがたくさんあった。僕は、モナシュ大学で学んだことももちろん重要だということわかっているが、バーやカフェなどで先輩方の話を聞いた経験も同様に大切だと思った。

ここまで、学習や学んだスキルなど、堅苦しいことを多く述べたが、観光や友人たちと過ごした時間が本当に楽しかったことを強調したい。やっぱりメルボルンという街に魅了され、本当に楽しい三週間を過ごすことができた。今までの人生において、最も楽しい時間を過ごしたといっても過言ではない。今回の留学で出会った人とは帰国後も連絡を取っている。さまざまな人とつながりができて本当に良かった。この報告書を書いているのは帰国して2週間後くらいの時点であるが、振り返るとさみしい気持ちにさいまれる。

ここで、留学を考えている人にアドバイスをできたらと思う。これを読んでいるあなたが、ある程度の英語力があると思うならば、たくさんある語学研修よりも GPP プログラムを強くおすすめしたい。一回生もしくは二回生であるならばベストだと思う。このプログラムは就活をする前の人にとっては最適である。もちろん就職が決まっている人にとってもよいものである。働くうえでのスキルなどが学べるからだ。ほくは人生において経験というもの本当に重要なものだと思う。今回の留学を経験して本当に良かった。

最後になるが、今回の留学を支援してくれた家族と両親には感謝しかない。この経験を生かすも殺すも自分だから必ず実りのあるものにする。そして、国際交流グループの皆さんやモナシュの職員、そして一緒に研修に参加した仲間には感謝の気持ちでいっぱいである。